



南条つ子

南条小学校だより

南条つ子は 進んで学ぶ子

R2.1. 10 No. 89

思いやりのある子

力いっぱいやりぬく子

目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成



○ 校内カルタ大会（～23日）

2学期後半、たくさん子どもたちが、校長室や職員室などに百人一首の暗唱に来ました。きっと、冬休み中も、頑張ってた覚えたのではないかと思います。

いよいよその成果を出す時です。各学年でカルタ大会を行い、各クラス上位5位までの人を表彰します。また、1～3年生は60首、4年生以上は100首覚えたら、校長室で認定証を渡します。（できるだけ多くの子どもたちに認定証を渡したいです。）ぜひ頑張りましょう！！



1年1組の練習風景

1年2組の練習風景

○ 学校評価について

学校評価にご協力いただきまして、ありがとうございました。詳しい結果につきましては後日お伝えしますが、普段、指導が不十分で行き届いていないことや、お家の方の思いなどが分かる大変ありがたい機会となりました。自由記述の内容に対して、少し書かせていただきます。

「ランドセルを軽くできないか（中身を少なくできないか）」というご意見がありました。数年前に知事からも発言があり、本校でも議論し、置いて帰れば良いものは置いておくようにして、中身を極力減らすよう取り組んでいます。また、できるだけ分散させて持ってきたり、持って帰るようにも工夫しています。しかしながら、この機会にもう一度確認します。

「教員や児童の言葉遣いが悪いときがある」というご指摘がありました。本校は、「話し方や聴き方」、「人権教育」などについても力を入れておりますが、まだまだ不十分な所が見られるようです。相手を傷つけたり、不快にしたりするような言葉遣いをしてはいけません。今後も継続して指導していきます。

「1学期、子どものケガに対する認識や連携不足があった（2学期は概ね問題はない）」というご指摘がありました。ご指摘の通り、対応や連携、連絡が不十分で、大変ご迷惑をおかけしました。今後はそのようなことがないように、十分気を付けます。

他にもいろいろ貴重なご意見・ご指摘ありがとうございました。職員会議などでも話し合い、今後には活かしていきたいと思っております。今後とも、ご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

○ 失敗を恐れずチャレンジする子どもを育てる

「一年の計は元旦にあり」新しい年を迎え、今年目標やチャレンジしたいことなどを話題にされたご家庭もあったことでしょう。もっといろんなことにチャレンジしてほしいのに、「どうせうまくいかないからやらない」、「失敗したら叱られる」、そんな気持ちが湧いてくるのか、最初から行動を起こさないお子様もいるのではないかと思います。

「子どもが失敗を恐れず行動を起こすようになった」という例(Aさんのお話)をお伝えします。

(1) 「結果」については一切評価をしない

Aさんのお子さんは、小学校5年生。昔から、慎重で、引っ込み思案だったそうです。そこで、少しでも積極的になればと思い、地元のサッカーチームに入部させることにしました。最初は、不安な様子でしたが、次第に楽しんで参加するようになりました。Aさんは、このチームのコーチを見ていて、あることに気づいたそうです。

「コーチは、結果については、何も言わないんです。もちろん、試合に勝てば、子どもたちと一緒に喜び、負ければ、一緒に残念がってくれるのですが、結果が『良かった』とか『悪かった』とかは言わないんです。シュートを外しても、『あの場面でよく前向きにチャレンジしたね。』と声をかけます。パスが乱れても、『攻めようとしていたことが伝わってきたよ。』と、やろうとしたことを承認するんです。一生懸命やっても、必ずしも、結果につながるとは限らないですよ。だから、結果については一切評価しないで、一生懸命やろうとしていたことはしっかり承認するんです。それで、うちの子も、結果を気にせず、チャレンジするようになったのかなって思います。

よく考えたら、私はこれまで、子どもに対して、結果のことばかり言っていたような気がします。『こんな点数じゃダメでしょう。』とか『いくら頑張っても結果がこれではね。』なんて言われたら、もうやろうとしなくなりますよね。」

(2) 「過程」を認める

確かに、結果にこだわることも大切なことだとは思いますが、テストであれ、試合であれ、その時に課題される問題や対戦相手によっては、頑張ったけれど、「うまくいかなかった」ということは往々にしてあります。

「そうならないために、日頃の勉強や練習が大切でしょう！」と言われれば、その通りかもしれませんが、だからこそ、結果よりも、日頃、取り組んでいることの方にもっと意識を向けて、認める声かけをしていくことが大切なのではないでしょうか。結果については、こちらが評価をするのではなく、「どう思った？」と子ども自身に聞いてみたら良いのです。こちらは、ただ、「長時間熱心に取り組んでいたね。」、「緊張したけどチャレンジしたね。」、「自分で決めたことをやろうとしていたね。」と過程を認めてあげていたら、子どものチャレンジ意欲は、もっと増していくのではないのでしょうか。

(3) 大人が「失敗はない」という考え方を持つ

「どんなに頑張ったとしても結果が出なければ意味がない」、「結果を出さなければ認めてもらえない」と子どもが思ってしまくと、失敗を恐れてチャレンジしなくなってしまいます。本当の失敗とは、何もチャレンジしないことです。やることをやって出た結果から、また、次どうするかを学べば良いのです。「成功と失敗」があるわけではなく、「体験と学んだこと」があるだけです。

(ベネッセの教育サイトより、一部書き換え)

「チャレンジしての失敗を恐れるな。何もしないことを恐れる」(本田宗一郎 1906～1991年)